

anisms of oral-facial sensation and movement. Appleton-Century-Crofts(In Press)]

[日米科学協力事業によるシンポジウム: Conference on mechanisms of oral-facial sensation and movement, Honolulu, Jan. 19~22, 1970.]

- 2) Prefrontal cortical unit activity and delayed alternation performance in monkeys.

Kisou Kubota & Hiroaki Niki

[J. Neurophysiology, 34, 337-347, 1971.]

学 会 発 表

- 1) かみくだき筋運動 (mastication) における皮質運動野細胞の関与

久保田 競・二木 宏明

第46回日本生理学会 (1969)

- 2) サルにおける prefrontal cortex の細胞活動と遅延反応

二木 宏明・久保田 競

第47回日本生理学会 (1970)

- 3) サルにおける三叉神経中脳核内の筋紡錘活動単位と随意運動

松波 謙一・久保田 競

第47回日本生理学会 (1970)

総 説

- 1) 生物科学における霊長類に関する研究の位置

時 央 利 彦

[科学, 39, 390-392 (1969)]

- 2) サルと運動機能の神経生理学的研究

久 保 田 競

[神経研究の進歩, 14, 3, 561-556 (1970)]

- 3) 慢性状態でニューロン活動を記録するための簡易モンキーチェアの作り方

酒井正樹・二木 宏明・久保田 競

[神経研究の進歩, 14, 3, 604-606 (1970)]

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄

東 滋・鈴木 晃

研 究 概 要

- 1) ニホンザルの生息状況の調査

川村俊蔵・和泉 剛*

野外研究および研究用サルの供給問題に関係ある生息状況の把握は、研究所の未来像として浮びつつある研究保護林設置の希望と結ぶ、地味であるがきわめて基本的な作業である。このため1970年度には、計33日間、次の地方で調査を行った。鈴鹿山脈南部および中部、木曽山地(とくに中央アルプス西面)、台高山脈東面、京大芦生演習林、その他、和歌山県椿、比良山系、美濃山地など。とくに、木曽山地については、工藤樹一、平津久、増井恵一の3人の共同研究員との合同調査が行なわれた。

- 2) 自然保護に関する作業

川 村 俊 蔵

IBP-CTSの班員として、とくに近畿地方に関し、自然とその破壊の現状把握を行うとともに山林施業、公園などの諸計画資料を入手し、大局および部分問題について保護のための将来構想を練った。また1と関連して、千葉県高宕山・京都府嵐山におけるサルの保護を図った。その他兵庫県東ノ山の調査を行った。

- 3) 幸島ニホンザル自然群の社会変動に関する研究

河 合 雅 雄

- 4) ニホンザルの性行動に関する社会学的研究

河 合 雅 雄

- 5) 東アフリカにおける森林性霊長類のテレメトリ法による生態学的研究

河 合 雅 雄

- 6) IBP-PT「陸上動物の個体数現存量および生産力測定法の研究」に参加、テレメトリによる方法の開発

河 合 雅 雄

- 7) 霊長類の社会生態学: 社会性、社会機構が種の生存に対してもつ意味の評価と、進化的位置づけ

東 滋

1. ニホンザルの生態地理、積雪地にすむニホンザルの生態学、社会学

2. 霊長類の自然保護に関する生態学

3. 熱帯降雨林のサルの生息環境としての評価(種間関係と人口動態)

- 8) 高等霊長類の集団の維持機構とその進化の諸問題

鈴 木 晃

* 京都大学霊長類研究所研究員

1. 地獄谷ニホンザルの地域集団の諸問題
2. 森林とサバンナのチンパンジーの比較生態学的研究
3. ヒト集団の自然への依存性の諸問題
- 9) ニホンザルにおけるあそびの社会学的研究

三戸 梅代*

ニホンザルのコドモは非常によく遊ぶが、あそびに関する研究は少ない。あそびの種類を分類し、その量的分析をすすめ、年齢、性、血縁関係などとの関連において、あそびのもつ社会的意味、機能について検討を行なっている。なお、上記の観点から霊長目におけるあそびの比較社会学的研究を行ない、あそびの本質についての考察を意図している。

また、あそびの研究を通じて、行動観察の定量化と分析に関する数学的方法の検討を行なっている。研究は主として幸島の群れを対象にして行なっている。

- 10) タイワンザルの activity と posture の分析

三戸 梅代

タイワンザル4頭のグループを対象にして、テレメーターを使って activity と posture の研究を行なっている。河合との共同研究であるが、とくにデータの数学的処理を分担している。

研究発表(1968年4月~1971年3月)

論文

- 1) 近畿地方の自然保護に関する一考察

川村 俊蔵

[JIBP-CT-S, 昭和44年度研究報告276-286]

- 2) 1967年冬季下北半島鳥獣調査報告

川村 俊蔵

[JIBP-CT-S, 昭和44年度研究報告249-257 (太田・吉場と共著)]

- 3) Acculturation in monkeys.

Syunzo Kawamura

[College International C. N. R. S. N198, (1970)]

- 4) Catching behavior observed in the Koshi-ma troop.

Masao Kawai

[Primates, 8(2), (1967)]

- 5) Some observation on the solitary male of Japanese monkeys—A pilot study for socio-telemetrical study of the primates.

Masao Kawai

[Primates, 9(2)(1968) (K. Yoshiba, S. Ando, S. Azuma と共著)]

- 6) Sociological study of solitary males in Japanese monkeys.

Masao Kawai

[Proceedings VIIIth international congress of anthropological and ethnological science, 1. (K. Yoshiba と共著) (1968)]

- 7) 白山周辺におけるニホンザルの生態学的研究—1

河合 雅雄

[白山の自然 (吉場, 東らと共著) (1970)]

- 8) 1967年冬季幸島鳥獣調査報告

東 滋

[IBP-CT, 加藤班, 1969年報告 (太田・川村・吉場と共著)]

- 9) 下北半島のニホンザルの現状—とくに除草剤の散布影響について

東 滋・和田一雄

[哺乳類科学, 20, 21合併号 (1970)]

- 10) An ecological study of chimpanzees in a savanna woodland.

Akira Suzuki

[Primates, 10, 103-148 (1969)]

- 11) Carnivory and Cannibalism observed among forest-living chimpanzees.

Akira Suzuki

[J. Anthropol. Soc. Nippon, 79, 30-48 (1971)]

- 12) テレメーターによるリュウキュウイノシシの行動追跡

三戸 梅代

[河合雅雄編, 陸上動物の個体群現存量および生産力測定の研究(1970)]

学会発表

- 1) 野生哺乳類の保護、とくに近畿3府県について

川村 俊蔵

第18回日本生態学会大会 (1971)

- 2) 木曾、鈴鹿、大台ヶ原などにおけるニホンザルの分布

川村 俊蔵

第15回プリマテス研究会 (1971)

- 3) テレメーターによるニホンザルソリタリの研究

河合雅雄・吉場健二・東 滋・安藤 滋

日本生態学会第15回大会 (1968)

- 4) Activity telemeter の生態学への応用

河合雅雄・三戸梅代・安藤 滋

日本生態学会第16回大会 (1969)

- 5) Activity telemeter によるタイワンザルの行動測定

三戸梅代・河合雅雄・安藤 滋

同 上 (1969)

6) 位置テレメトリによるニホンジカのノマディズムの研究

林 勝治・河合雅雄・安藤 滋・東 滋

日本生態学会第16回大会 (1969)

7) Telemeter によるタイソンザルの activity と posture の分析

河合雅雄・三戸梅代・安藤 滋

第23回日本人類学会民族学会連合大会 (1969)

8) テレメーターによるリュウキュウイノシシの行動追跡

小野勇一・河合雅雄・三戸梅代・東 和敬
安藤 滋

日本生態学会第17回大会 (1970)

9) 野生ニホンザルのアクティビティの測定

河合雅雄・三戸梅代・東 和敬・小野勇一
同 上 (1970)

10) 光電トラップの生態学への応用

安藤 滋・河合雅雄・東 滋
同 上 (1970)

11) 地獄谷ニホンザルのオスの群間移動について

鈴木 晃

第14回プリマーテス研究会 (1970)

12) サバンナと森林のチンパンジーの比較生態学的研究

鈴木 晃

日本生態学会第17回大会 (1970)

総 説

1) 世界のサル

河 合 雅 雄

〔毎日新聞社(岩本光雄・吉場健二と共著)(1968)〕

心理研究部門

園原太郎・室伏靖子

浅野俊夫・渡辺允子

研究概要

1) 霊長類における視覚・聴覚に関する各種絶対閾値および弁別閾値の測定

室伏靖子・浅野俊夫・渡辺允子・南雲純治*

霊長類、とくにニホンザルの視覚・聴覚に関する閾値測定法を開発し、昭和48年度までに、少なくとも視覚に関しては、比視感度曲線、聴覚に関しては、周波数特性曲線の基礎データを収集する。

2) 切断脳と学習行動**

室伏靖子・浅野俊夫・渡辺允子

高等動物の大脳両半球の機能を明らかにすることを目的として、次の2つの側面から実験がなされる。

1. ヒトにおいて、瞬間的に呈示される光刺激が、2つの反応系(言語系と非言語系)によって、処理されるプロセスを、反応時間を指標として分析する。

2. 正常なサルが両半球をoptic chiasmaとcorpus callosumで切断されたときに示す行動の変化を、オペラントの手法を用いて分析する。

3) オペラント条件づけにおける各種強化スケジュールの検討(薬物効果***, 脳損傷を含む)

浅 野 俊 夫

1. 各種基本スケジュールの累積記録の集録

2. コンピューターによるIRT分布の分析

3. 反応率と反応力(レバーを引く力)の比較分析

4) 弁別行動における諸要因の分析

渡 辺 允 子

1. 動因と反応率との関係

2. 動因と外的刺激の手掛り性との交互作用

3. 刺激般化の問題

5) オペラント手法を用いた発達過程の分析

渡 辺 允 子

1. FR, FI, VI, DRLのスケジュールに対する個体差

2. 自由場面におけるオペラント反応とその他の反応パターンの出現を時系的に分析する。

6) 情動行動の社会的役割

室伏靖子・南雲純治

動機づけのメカニズムを、動因、新奇刺激、嫌悪刺激、脳損傷または脳内電気刺激によって操作し、学習および自由な社会的場面における個体行動の変容と、その他の個体に与える効果を分析する。

研 究 発 表 (1968年4月~1971年3月)

学 会 発 表

1) 初期経験と刺激選択

渡 辺 允 子

日本心理学会第33回大会 (1969)

2) 鏡映図形弁別におよぼす側頭葉損傷の効果

渡 辺 允 子

日本心理学会第34回大会 (1970)

3) ニホンザルの2種反応強化事象における Auto-shaping

河 嶋 孝・小 川 隆・浅野俊夫

日本心理学会第34回大会 (1970)

4) 回避条件づけにおけるニホンザルの子期反応

室 伏 靖 子

日本心理学会第34回大会 (1970)

* 文部技官

** 本吉良治(京大・文)との共同研究

*** 井深信男(東大・心)との共同研究